



○ 全体的な傾向は、昨年度（令和5年度）と大きくは変わりませんが、多くの項目で肯定的な評価が増え、次の6項目では5ポイント以上向上しました。

- 1 「学校は安心できる場所で、来るのが楽しい」 95% (+5)
- 5 「授業はわかりやすく、楽しい」 91% (+6)
- 6 「授業でわからないことがあるとき、先生に質問しやすい」 85% (+8)
- 12 「早ね・早おき・朝ごはんを実践し、健康な生活を送っている」 88% (+11)
- 18 「友だちをいじめたり、仲間はずしをしたりせず、だれとでもなかよくできている」 98% (+5)
- 20 「相手をきずつけないように、言葉づかいに気をつけている」 95% (+7)

○ その他、90%以上が「とても思う・思う」と回答した満足度が高い項目は、次の通りです。

- 7 「授業中、先生や友だちの話をきちんと聞いている」
- 11 「しなければいけない仕事をきちんとしている」
- 14 「安全に気をつけて登下校している」
- 15 「宿題を忘れずにしてきている」
- 16 「地震や火事などのとき、不審な人があらわれたときなど、どう行動したらよいか分かる」
- 17 「学校のきまりや約束を守って行動している」

● 改善が必要な満足度が低い項目だったのは、次の項目です。

- 9 「授業中、姿勢正しく学習している」 76%
- 10 「進んで読書をしている」 57%
- 13 「休み時間には外で遊ぶなど、自分から進んで運動している」 76%

## (2) 結果からの考察

児童の生活態度や規範意識、安全意識は非常に高いことが分かります。一方で、「読書習慣の定着」「学習態度の改善」「外遊びの促進」が課題として浮かび上がりました。ここからは、学校教育目標「心豊かで、たくましい子どもの育成～自ら気づき、考え、実行できる子どもの育成～」と照らし合わせながら考察をしていきます。

- 「心豊かさ（人間関係・規範意識）」については、「思いやり」や「規範意識」はしっかりと身につけてきており、安心して学校生活を送ることができる環境が整っていると考えます。これは、「心豊かで、たくましい子ども」の育成に大きく貢献しています。
- 「たくましさ（自主性・安全意識）」については、自分の役割に責任を持ち、積極的に学校生活を送る姿勢が見られます。特に、防災意識や登下校の安全確保に関する意識が高いのは、たくましい子どもに育ってきている証拠であるといえます。
- 「自ら気づき、考え、実行する力（主体性）」については、「すすんで読書をしている」「授業中、正しい姿勢で学習している」の自己評価が低いことから、改善が必要な部分であるといえます。本を読む習慣が弱いと、深く考える力や知識の幅が狭くなる可能性があります。また、授業中の姿勢の乱れは、集中力や学習意欲の低下につながります。  
全国的にも活字離れが課題となっている読書ですが、読書を通じて自ら考える力を育むためにも、引き続き担任による読み聞かせや「読み語り」ボランティアの活用を継続するのに加え、「読書チャレンジ週間」を設定したり、「読書感想シェアタイム」で考えを言葉にする機会を増やしたり、「おすすめの本紹介」で興味をもてる本と出会える機会を増やしたりするなど、多様な方策を検討し、息長く地に足を付けて取り組んでまいります。  
正しい姿勢の習慣化については、机や椅子の高さを調整して姿勢が崩れにくい環境をつくることに加え、定期的に姿勢をチェックしたり、授業中に軽いストレッチを取り入れて姿勢をリセットする習慣をつけたりすることが具体的な改善策として考えられます。
- 「たくましさを育む」外遊びの促進については、身体を動かす楽しさを実感できる環境をつくり出していきたいと考えます。「外遊びデー」を活用し、全員が活動する機会をつくったり、かがやき班対抗のミニ運動イベントを定期的に開催して外で遊ぶ楽しさを伝えたりすることも検討しながら実行してまいります。遊具や用具の充実なども合わせて考えていきます。徒歩での登下校も基礎的な体力をつくっていく大事な要素であると考えますので、保護者の方のご理解ご協力もお願いしたいと思います。

「心の豊かさ」「自主性・安全意識面でのたくましさ」が心理的安全性を確保された学校環境で育ってきていることをうれしく思う一方で、「主体的に学ぶ力」や「積極的に身体を動かす習慣」については改善の余地があることが分かってきました。アンケートで明らかになってきた成果と課題を真摯に受けとめ、読書習慣の促進や学習環境の改善、外遊びの活性化などを進めていくことで、教育目標の達成度をさらに高めてまいります。また、教職員の児童理解をさらに深め、児童一人一人の思いに寄り添い、保護者の方と連携して「学校が安心できる場所で、来るのが楽しい」と答える児童が100%になるよう、全教職員で引き続き取り組んでまいります。